

www.ozorasha.co.jp

「我命あらんかぎりは書つゞけんとおもふなれば、
一期のうちには清書することかなふべからず」

貞丈の魂の著作『貞丈雜記』は現代人への贈り物。

貞丈が生涯を捧げた『貞丈雜記』は、武家故実を中心に、公家故実や民間風俗、神道から文学まで幅広い分野に及びます。貞丈は、古記録に基づき緻密な考証をふまえた正確な故実を分かりやすく説く一方で、妄説に対しては徹底した批判と排斥を行いました。彼が晩年二二年間に集録した膨大な故実（三六部二三五〇項目）は、日本人のしきたりや礼法の根源を知る基本文献です。また、三〇〇点以上と言われる貞丈の著作と学問体系を理解するための根本資料であり、どの巻を読んでも興味深い知見に溢れています。

■貞丈の墓（浄土宗大吉寺 *東京世田谷区）

貞丈は『貞丈雜記』巻之一六「凶事の部」で、死者に院号を付けるのは生前に菩提所となる寺院を建立した高位高官のすること、江戸時代には院号も金次第になったことを批判したが、死去する三年前の天明元年七月に菩提寺・大養寺住職宛て書簡で「拙者死去候節、追号の事、院号、居士号等、長き称号、堅御無用に候。唯何と成共、二字名御付可被成候。殊に、寺号、院号は、摂政関白將軍家等、其寺院を建立被成候に依て、其寺院の号を称し候事に候。……我等如き賤き武士の身として院号稱し候事、かたはらいたく候」と二字法号を切望した。祖先・孫など多くの墓が並ぶ墓のほとんどが「院殿号」になっている中、貞丈の法号は「長養」の二字字だけが刻まれている。貞丈は終始一貫、故実に徹し、言行一致の生涯を送ったと言えるよう。



【三六部二三五〇項目の故実の一例】

*引用は現代語訳の大意です。

○婚礼は夜行うもの

↓ 男は陽、女は陰で、婚礼は嫁を迎える祝儀のため夜に行う。「婚」の字の「昏」は日暮れを意味する。だが近年、大名等が昼間に婚礼を行うのは古法に背くものである。（第一巻「祝儀部」）

○「ごちそうを」「馳走」と書く理由

↓ 「馳走」「奔走」の字はともに「はしる」こと。お客をもてなすために、主人が一生懸命になって珍物を求めて美味しい料理をふるまうなど心を尽くすから。（第六巻「飲食部」）

○手紙を「消息」と呼ぶ理由

↓ 手紙は、相手の安否を確認し、自分の用件も伝えるもの。それにより、心中の不安を消して気持ちをすっきりさせるので「消息」と言う。（第九巻「書札部」）

○金を「料足」「要脚」「おあし」と呼ぶ理由

↓ 金は天下の回り物。足があるかのように世の中をめくり歩くから。（第一五巻「鳥目部」）

○切腹は日本の伝統ではない

↓ 『日本書紀』に見える自殺の例は、首つりや焼死のみ。『保元物語』に為朝が二八歳で自刃した記事が見えるのが早い例で、勇気を示す切腹がこの頃始まったが、主君が臣下に命じる切腹は「く最近のこと」である。（第一六巻「凶事部」）

活字本では分らない、原典の真意や和本の趣が伝わってきます。

文字の大きさや高さ、欠字（闕字）・改行（平出・擡頭）、傍注・割注の位置など、翻刻（活字化）によって失われてしまう文字情報の数々。短時間の調査や概要把握には翻刻が便利ですが、正確を期すには、原本が複製による確認が不可欠です。

*例えば、文書における人名や年号の位置などは重要な意味を持ちますが、これらの付随情報を含め活字で全てを再現することは困難です。

一 活字本は政所より書き下す状也又言の始終は下と云字を
書ゆ（一）ゆきと云く古き案文左の如し

鎌倉頼経公宅
將軍家政所下
補任
地頭職事
尾張國長岡庄住人

前近江守信綱法師

右人承久兵亂宇治河鋤鋒之勳賞豊浦庄之替可為
彼職之状所作以下

文暦二年七月七日

案主左近將曹菅原
知家事内舍人清原
令左衛門少尉藤原
別當相模守平朝臣
武藏守平朝臣

右案文左鑑卷三十に見えり外も案文多し 右の文
乱は佐々木信綱宇治川の先陣の勳賞は豊浦の庄を給りし
後より所を神代に寄附せられしに依りて、その代り
を給りし時の内々也也長岡の庄の住人は前近江守信綱法師を
地頭職に作せらるる旨を承け給ふなり

翻刻一甲

一 御下文は政所より書き下す状也又言の始終は下と云字を書ゆへくだしふも云也古き案文左の如し
鎌倉頼経公宅
將軍家政所下
補任
地頭職事
尾張國長岡庄住人
前近江守信綱法師
右人承久兵亂宇治河鋤鋒之勳賞豊浦庄之替可為彼職之状所作以下
文暦二年七月七日
案主左近將曹菅原
知家事内舍人清原
令左衛門少尉藤原
別當相模守平朝臣
武藏守平朝臣
右の案文は承久の亂に佐々木信綱宇治川の先陣の勳賞に豊浦の庄を給りしが後に
住人に前近江守信綱法師を地頭職に仰せられしに依りて其代に長岡の庄を給る時の御下文也長岡の庄の
住人に前近江守信綱法師を地頭職に仰せられしに依りて其代に長岡の庄を給る時の御下文也長岡の庄の

翻刻一乙

一 御下文の事 御下文は政所より書き下す状なり。文言の始終に「下」と云う字を書くゆ
え「くだしふみ」と云うなり。古き案文、左の如し。
將軍家鎌倉頼経公宅
補任
地頭職事
前近江守信綱法師
右人承久兵亂宇治河鋤鋒之勳賞豊浦庄之替可為彼職之状所作以下
文暦二年七月七日
案主左近將曹菅原
知家事内舍人清原
令左衛門少尉藤原
別當相模守平朝臣
武藏守平朝臣
右の案文「東鑑」卷三十に見えたり。この外にも案文多し 右の文は、承久の亂に佐々木信綱
宇治川の先陣の勳賞に豊浦の庄を給りしが、後にその所を神代等に寄附せられしに依りて、その代り
に長岡の庄を給る時の御下文なり。長岡の庄の住人に前近江守信綱法師を地頭職に仰せ付けらるる旨
を申渡す御くだしふみなり

日本のしきたり・礼法と生活文化のルーツが分かる江戸期故実書の最高峰を全巻複製!!
活字では決して味わえない、原本の息吹を伝える本邦初の複製版。

て い じ ょ う ぎ っ き
複製版 貞丈雑記 全4巻

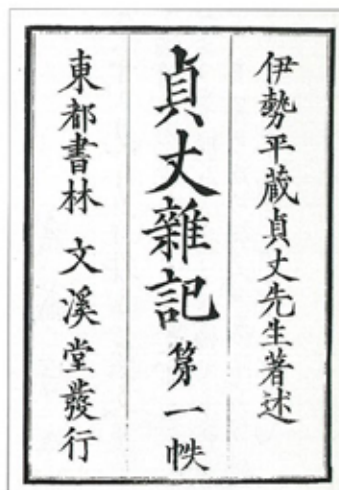
●江戸期故実書の最高峰『貞丈雑記』

室町時代から続く礼法家の名門・伊勢家随一の故実家・伊勢貞丈の代表的著作で、伊勢流故実の集大成。貞丈が子孫のために晩年約22年間に書き集めた故実考証の膨大な記録を、5代の孫・伊勢貞友の時に岡田光大と千賀春城の協力を得て編纂し、天保14年(1843)6月刊行。

全16巻36部(礼法、祝儀、人品、人物、人名、小袖、烏帽子、役名、官位、装束、飲食、膳部、酒盃、輿、調度、書札、進物、弓矢、武具、刀剣、武芸、馬、馬具、家作、座鋪飾、紙類、皮類、鳥目、鷹、物数、言語、神仏、諸結、凶事、雑事、書籍の36部) 2350項目からなり、伊勢流の武家礼法を基本に、関連する公家礼法にも言及する。

●著者 伊勢貞丈 いせさただけ 故実家

[生没] 享保2年(1717)12月28日生、天明4年(1784)5月28日没。68歳。墓、江戸芝大養寺(現在、東京都世田谷区大吉寺)。[名号] 本姓、平。名、貞丈(俗にテイジョウ)。幼名、万助。通称、兵庫・平蔵。号、安齋・銀郷散人。法号、長營。[家系] 伊勢貞益の次男。[経歴] 江戸麻布の生れ。享保11年に家督を嗣ぎ、寄合より小姓組となった。独学で故実を修め、文献中心の忠実な考証と明快な説明を特徴とし、「伊勢流」として広く行われた。(岩波書店『国書人名辞典』参照)



●本書の特長

- ①日本を知る不朽の名著『貞丈雑記』(底本は弘化3年(1846)板)全16巻32冊を全4巻に収録。原典による本邦初の完全複製版です。『貞丈雑記』の翻刻は数種刊行されていますが、翻刻では見落とししがちな情報も本書で正確に把握できます。
- ②読みやすさと扱いやすさを兼ね備えたA5判。頭書などの細注も十分に読むことができます。原本の汚損や書き入れは極力修正し、読みやすさを重視しました。
- ③第4巻に総目次・索引・解題・貞丈著作一覧を収録。簡潔な解題と約550点に及ぶ著作一覧など、貞丈の業績と「貞丈学」を深める基本事項を押さえました。入門から専門特化した研究まで幅広く活用できます。

●推奨の研究分野・必備機関等

日本史・国文学・法制史・武道史・芸能史・建築史・民俗史・風俗史・宗教史・食物史・服飾史・生活文化等の研究者・古文書愛好家、研究機関・図書館・資料館等を始め、日本のしきたり、生活文化(礼法・婚礼・食物・服飾・調度・装飾)、時代考証に関する全ての方にお奨めします。

●巻構成・定価

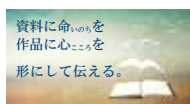
- 第1巻＝原典第 1～ 4巻(礼法、祝儀、人品、人物、人名、小袖、烏帽子、役名、官位の9部)
- 第2巻＝原典第 5～ 8巻(装束、飲食、膳部、酒盃、輿、調度の6部)
- 第3巻＝原典第 9～12巻(書札、進物、弓矢、武具、刀剣、武芸の6部)
- 第4巻＝原典第13～16巻(馬～書籍の15部)・総目次・総索引・解題・貞丈著作一覧

全4巻揃定価(本体72,000円+税) *分売不可

*体裁——A5判・上製・クロス装、総2200頁

発行：大空社 2012年6月

学術資料出版
大空社出版



東京都東村山市秋津町 5-24-13-101 (〒189-0001)
TEL:042-306-3383 / FAX:042-306-3384
www.ozorasha.co.jp / eigyo@ozorasha.co.jp